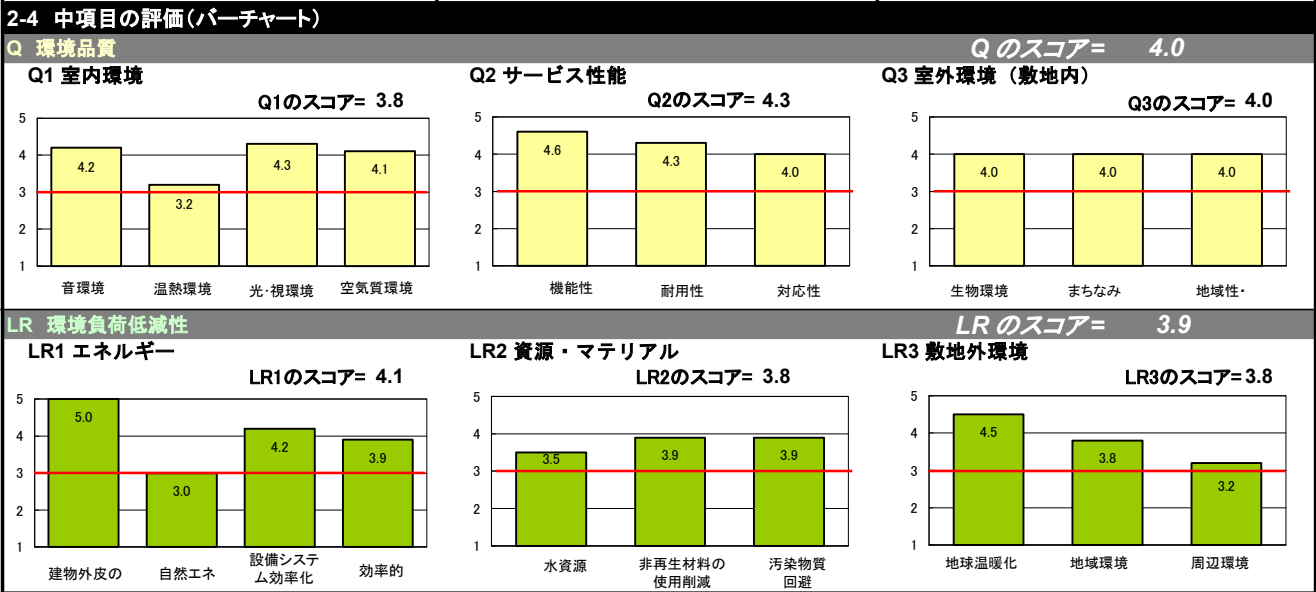
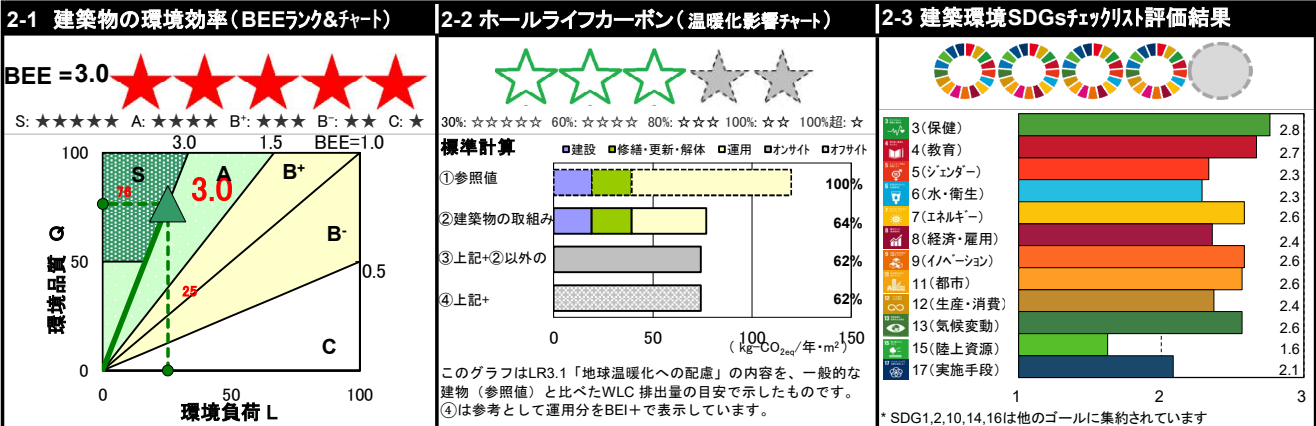


CASBEE®-建築(新築)

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2024年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2024_v1.22

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	住友重機械工業 新居浜総合本館	階数	地上7階
建設地	愛媛県新居浜市	構造	S造
用途地域	工業専用地域	平均居住人員	1,000 人
地域区分	7地域	年間使用時間	3,000 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2028年11月 予定	評価の実施日	2026年4月15日
敷地面積	358,648 m ²	作成者	藤川 瑞生
建築面積	3,768 m ²	確認日	2026年4月15日
延床面積	16,762 m ²	確認者	真鍋 寛



3 設計上の配慮事項		
総合		その他
事業生産性・防災機能の向上や環境負荷の低減に寄与した新総合本館と、既存本館を減築改修した新厚生棟により構成されている。フレキシブルなワークプレイスや健康的で楽しく働ける環境づくりだけでなく、敷地内の積極的な緑化や来場者が親しみを感じられる共用部を計画することで地域に開かれたイメージを確立している。		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
・高性能なガラスや断熱材を使用しており、室内への熱の侵入を抑えている。 ・トップライトや光ダクトにより室内へ光を取り込む計画としている。	・OAフロアとシステム天井を採用し、レイアウト変更や機器の更新性に配慮している。 ・防汚性の高い建材を使用することで維持管理に配慮した設計としている。	・敷地外周部を積極的に緑化することで良好な景観を周辺地域に提供している。 ・重層庭園や屋上庭園をイベント時に開放し、地域へ貢献している。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
・高効率な設備機器を導入し、エネルギーの効率的利用に配慮した計画としている。 ・中央監視により主要な用途別エネルギー消費量の計測を行っており、消費特性の把握・分析が可能となっている。	・節水器具を採用することで水資源の保護に配慮している。 ・ノンフロン断熱材を採用している。 ・資源の使用量削減のため、リサイクル材や再利用可能な部材を採用している。	・敷地内で燃焼機器を使用しておらず、大気汚染防止に配慮している。 ・十分なスペースの廃棄物置場を設け、分別可能な回収容器の設置を計画している。 ・周囲への漏れ光に配慮した照明計画としている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ホールライフカーボン(WLC)」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の温室効果ガス排出量のこと。ここでは、建築物の寿命年数で除した年間温室効果ガス排出量で表示。
■評価対象のWLC排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

無断転載禁止

CASBEE-建築(新築)2024年版
住友重機械工業 新居浜総合本館

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2024年版

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2024_v1.22

スコアシート 実施設計段階						
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質						4.0
Q1 室内環境			0.40		-	3.8
1 音環境		4.2	0.15	-	-	4.2
1.1 室内騒音レベル	騒音レベル:45dB以下	4.0	0.40	-	-	
1.2 遮音		4.6	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能	開口部遮音性能:T-2	5.0	0.60	-	-	
2 界壁遮音性能	Dr-40	4.0	0.40	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	-	-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	-	-	-	-	-	
1.3 吸音	床:カーペット、天井:DR	4.0	0.20	-	-	
2 温熱環境		3.2	0.35	-	-	3.2
2.1 室温制御		3.5	0.50	-	-	
1 室温	-	3.0	0.38	-	-	
2 外皮性能	窓システム:[SC]0.29、[U]2.77W/m ² 、外壁:[U]0.66W/m ²	5.0	0.25	-	-	
3 ゾーン別制御性	-	3.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御	-	3.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式	-	3.0	0.30	-	-	
3 光・視環境		4.3	0.25	-	-	4.3
3.1 昼光利用		4.4	0.30	-	-	
1 昼光率	昼光率:2.15%	4.0	0.60	-	-	
2 方位別開口	-	-	-	-	-	
3 昼光利用設備	トップライト、光ダクトの採用	5.0	0.40	-	-	
3.2 グレア対策		4.0	0.30	-	-	
1 昼光制御	ブラインドと庇によりグレアを制御している	4.0	1.00	-	-	
3.3 照度	タスク照度:500lx、アンビエント照度:300lx	4.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御	センサーによる自動照明制御ができる	5.0	0.25	-	-	
4 空気質環境		4.1	0.25	-	-	4.1
4.1 発生源対策		4.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質	ほぼ全面的にF☆☆☆☆の建材を採用している	4.0	1.00	-	-	
4.2 換気		3.6	0.30	-	-	
1 換気量	中央管理方式の空調機が設置されており、30m ³ /hを満たしている	4.0	0.33	-	-	
2 自然換気性能	-	3.0	0.33	-	-	
3 取り入れ外気への配慮	空気取り入れ口に汚染源はなく、各種排気口と6m以上離れて設置されている	4.0	0.33	-	-	
4.3 運用管理		5.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視	CO ₂ 監視が中央で常時行えるシステムとなっており、空気質を適正に維持するための管理マニュアルが整備されている	5.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御	ビル全体で禁煙となっている	5.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	4.3
1 機能性		4.6	0.40	-	-	4.6
1.1 機能性・使いやすさ		4.0	0.40	-	-	
1 広さ・収納性	-	3.0	0.33	-	-	
2 高度情報通信設備対応	Gigabit通信回線の引込を計画している	5.0	0.33	-	-	
3 バリアフリー計画	バリアフリー新法の建築物移動等円滑化基準を満たしている	4.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性		5.0	0.30	-	-	
1 広さ感・景観	天井高:3.0m	5.0	0.33	-	-	
2 リフレッシュスペース	執務スペースの1%以上のリフレッシュスペースを確保しており、自動販売機の設置がある	5.0	0.33	-	-	
3 内装計画	内装デザインはブランドカラーである住重ブルーを引き立てるカラーを採用している	5.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理		5.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計	防汚性の高い建材の採用、壁掛け便器の採用 等	5.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保	梁型の外装により開口部の清掃を安全に行うことができる 等	5.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性		4.3	0.30	-	-	4.3
2.1 耐震・免震・制震・制振		4.6	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	損傷制御設計が行われている	5.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能	-	3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.6	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数	-	3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上材の補修必要間隔	-	2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上材の更新必要間隔	[床]カーペット:20年	5.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	厨房排気にはSUS製ダクトを採用している	5.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水管:硬質塩化ビニルライニング鋼管[B]	5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔	-	3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		4.6	0.20	-	-	
1 空調・換気設備	吊り配管として地震時の被害を抑える対策を行っている	5.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備	節水器具を過半数以上の器具に採用している	5.0	0.20	-	-	
3 電気設備	非常用発電機を設置している	4.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法	耐震クラスA	4.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備	災害時はBS・CS等により災害情報を入手することができる	5.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			4.0	0.30	-	-	4.0
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高:4.4m	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率:0.14	4.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			4.0	0.30	-	-	
[スラブ用]4900N/㎡、[柱・大梁・基礎]1800N/㎡、[地震用]800N/㎡							
3.3 設備の更新性			3.6	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性	システム天井を採用しており、仕上げ材を痛めることなく更新・修繕ができる	4.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	OAフロア、ケーブルラックを採用しており、構造部材と仕上げ材を痛めることなく更新・修繕ができる	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	OAフロア、ケーブルラックを採用しており、構造部材と仕上げ材を痛めることなく更新・修繕ができる	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	—	3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			—	0.30	-	-	4.0
1	生物環境の保全と創出	外構緑化指数:25%、敷地周辺の生物環境の立地特性の把握等	4.0	0.30	-	-	4.0
2	まちなみ・景観への配慮	敷地の東側には地形の文脈を取り入れた緑豊かな広場を設け、良好な景観形成を図っている	4.0	0.40	-	-	4.0
3	地域性・アメニティへの配慮		4.0	0.30	-	-	4.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域のイベント時には敷地東側の重層庭園や屋上庭園を開放している	5.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	—	3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			—	-	-	-	3.9
LR1 エネルギー			—	0.40	-	-	4.1
1	建物外皮の熱負荷抑制	BPI=0.79	5.0	0.20	-	-	5.0
2	自然エネルギー利用(直接利用)	—	3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化	BEI=0.42	4.2	0.50	-	-	4.2
	集合住宅以外の評価		4.2	-	-	-	
	集合住宅の評価		-	-	-	-	
4	効率的運用に向けた取組み		3.9	0.20	-	-	3.9
	集合住宅以外の評価		3.9	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	中央監視により主要な用途別エネルギー消費量の計測を行っており、消費特性を把握・分析している	4.0	0.40	-	-	
4.2	運用管理体制	建物全体のエネルギー消費量の目標値を設定している	4.0	0.40	-	-	
4.3	非化石エネルギーの導入の拡大	—	3.0	0.10	-	-	
4.4	コミッションングの推進	発注者要件について関係者間の合意形成を図り、記録書を作成している	4.0	0.10	-	-	
	集合住宅の評価		-	-	-	-	
4.1	モニタリング	—	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制	—	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			—	0.30	-	-	3.8
1	水資源保護		3.5	0.20	-	-	3.5
1.1	節水	節水コマ、省水型機器を採用している	4.0	0.40	-	-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.3	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	—	3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無	工水を利用している	4.0	0.30	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減		3.9	0.60	-	-	3.9
2.1	材料使用量の削減	F=325以上の鋼材を使用している	4.0	0.10	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用	—	3.0	0.20	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	—	3.0	0.20	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	グリーン購入法:ビニル系床材、エコマーク製品:ボード類、プラスチックデッキ材	5.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材	—	3.0	0.10	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	LGS工法、OAフロアの採用	5.0	0.20	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避		3.9	0.20	-	-	3.9
3.1	有害物質を含まない材料の使用	PRTR法に該当しない建材を4つ採用している	5.0	0.30	-	-	
3.2	フロン・ハロンの回避		3.5	0.70	-	-	
1	消火剤	—	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	押出法ポリスチレンフォーム(ODP=0、GWP=3)	4.0	0.50	-	-	
3	冷媒	—	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			—	0.30	-	-	3.8
1	地球温暖化への配慮		4.5	0.33	-	-	4.5
2	地域環境への配慮		3.8	0.33	-	-	3.8
2.1	大気汚染防止	敷地内で燃焼機器を使用していない	5.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善	—	3.0	0.50	-	-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制		4.2	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減	行政指導はないが対策を実施している	4.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制	—	3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	駐車場の出入口はIN・OUTを分け車路幅を広く確保することで周辺道路への渋滞緩和に寄与した計画としている	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	十分なスペースの廃棄物置場を設け、分別可能な回収容器の設置を計画している	5.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮		3.2	0.33	-	-	3.2
3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
1	騒音	—	3.0	1.00	-	-	
2	振動	—	-	-	-	-	
3	悪臭	—	-	-	-	-	
3.2	風害、砂塵、日照阻害の抑制		3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制	—	3.0	0.70	-	-	

	2	砂塵の抑制	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	3	日照障害の抑制	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	3.3 光害の抑制		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	ガイドラインのチェックリストの過半以上を満たしている									5.0	0.70	—	—	—
	2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3.0	0.30	—	—	—

CASBEE-建築(新築)2024年版

住友重機械工業 新居浜総合本館

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	4.0	—	○	○	○	○	—	—	—	—					
1.3.1 維持管理に配慮した設計	9.0	—	○	○	—	○	○	—	○	○	○	○	—	○	—
1.3.2 維持管理用機能の確保	10.0	—	○	○	○	○	—	○	○	○	○	—	○	○	—
2.4.1 空調・換気設備	3.0	—	—	○	—	○	○								
2.4.2 給排水・衛生設備	4.0	3.0	○	—	○	—	○	○	—						
2.4.3 電気設備	3.0	2.0	○	○	—	○	—	—							
2.4.5 通信・情報設備	4.0	—	○	○	○	—	○	—							
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	10.0	—	2.0	—	2.0	1.0	—	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	—		
2 まちなみ・景観への配慮	4.0	—	2.0	1.0	—	—	1.0	—							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	5.0	—	—	—	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	—					
3.2 敷地内温熱環境の向上	9.0	—	—	1.0	2.0	1.0	—	2.0	—	1.0	2.0				
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用(直接利用)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
4.1.4 コミュニケーションの推進	—	—	○	○	—	—	—								
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	—	—	—	—	—	—	—	○	○	—					
2.1 材料使用量の削減	3.0	—	—	1.0	2.0										
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	—	—	—	—	—	—									
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0	—	○	—	○	—									
3.1 有害物質を含まない材料の使用	4.0	—													
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	9.0	—	1.0	1.0	—	2.0	1.0	1.0	—	2.0	1.0	—			
2.3.3 交通負荷抑制	4.0	—	1.0	—	1.0	1.0	1.0	—							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	5.0	—	1.0	1.0	1.0	1.0		—	1.0						
3.2.2 砂塵の抑制	2.0	—	2.0	—											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0	—	2.0	2.0											

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC	0.3	窓の日射熱取得率(η) 0.3			
U値(W/m2K)	窓システム 2.8	屋根 0.7	外壁 0.7	床 0.7	
住戸部分	窓システムU値 -	外皮UA値 -	η AC -	η AH -	
屋光率	2.2%				
自然換気有効開口面積率	0.0%				

3.1.1 屋光率

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

執務スペース	.0㎡ /人	病床	.0㎡ /床	シングル	.0㎡ ツイン	.0㎡
コンセント容量	60.0 VA/㎡					
天井高	3 m					
リフレッシュスペース	13.0%	レストスペース	0.0%			

1.1.2 高度情報通信設備対応

1.2.1 広さ感・景観

1.2.2 リフレッシュスペース

2.2.1 躯体材料の耐用年数

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

3.1.1 階高のゆとり

3.1.2 空間の形状・自由さ

3.2 荷重のゆとり

壁長さ比率 14.0%

床荷重 4900 N/m2

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

3.2 敷地内温熱環境の向上

外構緑化指数 25% 建物緑化指数 11%

空地率 51% 水平投影面積率 0% 地表面対策面積率 0% 舗装面積率 0%

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

2 自然エネルギー利用(直接利用)

BPI/BPI_m 0.79 断熱等性能等級 0 相当

影響範囲の割合 0.0% 採光を満たす教室数 0.0% 採光を満たす住戸数 0.0%

通風を満たす教室数 0.0% 通風を満たす住戸数 0.0%

太陽光 103.0kW 太陽熱等 0kW 蓄電池 0kWh

3 設備システムの高効率化

非住宅部分

集合住宅

BEI/BEI_m 再エネ有 0.44 無 0.48 オフサイト再エネ有 ○○GJ/年

一次エネ削減率 再エネ有 ##### 無 #####

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

2.5 持続可能な森林から産出された木材

3.2.1 消火剤

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

3.2.3 冷媒

雨水利用率 0.0%

特定調達品目 ルースレイ エコマーク商品 ソーラトン、M-WO自給地指定の特定品目等

使用比率 0.0%

オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)

オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP) 3

オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)

見付面積比 119% 隣棟間隔指標R_w 0.49

地表面対策面積率 0.0% 屋根面対策面積率 11.0% 外壁面対策面積率 0.0%

見付面積S_b 2,849㎡ 卓越風向と直交する最大敷地幅W_s 160.7 m 基準高さH_b 14.8 m

緑地 807㎡ 水面 ㎡ 保水性対策面 ㎡ 高反射対策面 ㎡ 再帰性反射対策面 ㎡

無断転載禁止